

子どもたちと私たちの生活

福永 恭子

年長組になって多くするようになったのは、話しあいです。いろいろなことをみんなで考え、決めてするようにしました。子どもたちはよく考えて話をしますので、私には思いも寄らないことも出て来てびっくりすることもありますし、子どもの本心を知らされてはっとすることもありました。

六月には、お父さん（お母さん）と遊ぶ会でどんなことをしたいかについて話しあいました。外で遊びたいという子どもが多く、また一緒にしたいこともたくさん出ました。サッカー、野球、開戦どん、ドッジボール、宝さがし、砂遊び、絵を描く、ぶらんこ、鉄棒な

どなど。子どもたちは幼稚園でいつもしていることをお父さん、お母さんとしたいのだということがわかりました。私たち（年長組は二クラスでした）が考えたことも話していくつかに絞り、またみんなで作ってみてできるかどうか、楽しいかどうかをみてみたりもしました。

話しあいながら決めていくのは大変でしたが、このようなことを通して子どもたちはお父さん（お母さん）と遊ぶ会を楽しみにするようになりました。プレゼントも自分で考えて作りたいということになり、毎日少しずつ作っていききました。

父の日の当日、午前中はよいお天気でしたのに、椅子などを運び出し始めた頃になって空が暗くなり、なんとということでしょう、雷雨になってしまったのです。子どもたちが登

園する頃には小雨になりましたが、結局部屋で遊ぶことになりました。

うれしそうにお父さん、お母さんと一緒に来た子どもたちは教会の聖堂で礼拝をした後、保育室に入り親子揃ってすわりました。はじめに宝さがしです。探す人たちは手で顔を隠して見ないようにし、隠す人たちはすぐに見つけられないように考えて隠します。親子対子どもですので、お父さん、お母さんが探す姿をじっと見ている子どもたち。子どもが思いつかないような所に隠すお父さんたち。それぞれの目はとても真剣で、みんなが見つけることができるとほっとしています。

次は意欲満々の開戦どんです。狭い部屋ですのでクラス毎にしました。（親子対子どもです）始まる前から子どもたちは興奮気味で



◀ 開戦どんの始まりです

す。自分のお父さん、お母さん、子どもに突進する人。じゃんけんに勝ってにこにこ顔の子どもたち。お父さん、お母さんも勝ち進むと力が入って来ます。一回戦子どもたちは惜しくも負けましたが、二回戦で勝った時の喜びようはすごいものでした。飛びあがってみんな嬉し、見ていた人たちも「本当によかった」という表情で拍手を贈って下さいました。

次は親子で「アルプス一万尺」を踊りました。足じゃんけんの時は床が揺れるようでしたし、勝って子どもに肩をたたいてもらうお父さんの大きな背中もうれしそうに見えました。

最後にみんなで写真を撮って終わりにしました。うれしそうに帰って行く子どもたちとお父さん、お母さんたちの姿、そしてそれぞ

れ的笑顔がとても印象的で、雨のために外でできなかった残念な気持ちは吹き飛んでしまいました。

七月には、お泊まり保育について話しあいました。

年長組の子どもたちが幼稚園に一泊して過ごすのですが、お泊まり保育の時にしたいことや食べたい物についても聞いてみました。兄や姉がいて話を聞いているのでしょうか、キャンプファイヤーやスイカ割りをしたいという子どもたちもいました。今年は例年よりも早く登園してカレーライスの野菜を切ることにしました。また今まで私たちがしていた劇や歌などはやめて、子どもたちがしたらどうかということになり相談しました。「劇や合奏や自分の好きなことをグループでした

り、お友達のものを見るのはいかがかしら」と話しましたら、「戦いがしたい」、「ペープサートがいい」、「人形じゃなくて人がする劇がしたい!」などの声が次々にあがりました。「戦い」と聞いて「あらら、大変、どうしよう」と思いながら、子どもたちの話すことを書き留めました。

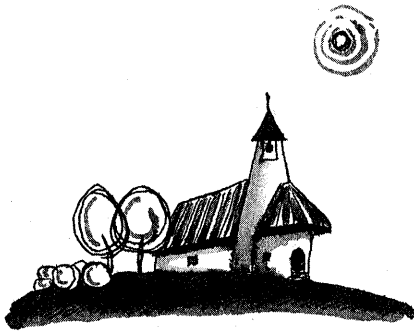
降園後隣のクラスの先生と相談して、戦いをしたい男の子たちがたくさんいること、話の中で戦いが出て来るようにしたらできるのではないかなどを考え、子どもたちがどう具体化していくかを見ていくことにしました。

一人ひとりになりたいことを聞き、最終的にはペープサート、ピアノと合奏、劇二つの四グループに分かれました。ペープサートと劇はグループのメンバーで話を作りました。い

ろいろな話をどんどん考え出しますので、私
たちはくつつけたり要約したりするのに苦労
しながらもそのおもしろさに笑ったりして思
わず力が入りました。戦いだけと言っていた
グループもお姫さまが加わったりして変化に
富んだ話ができあがりました。ピアノと合奏
のグループではピアノを弾く子どもが曲を決
め、それに鈴とトライアングルを合わせるこ
とにしました。

お泊まり保育の一日目、子どもたちは午後
タオルケットとシートなどの荷物と一緒にた
くさんの期待と少しの不安を持って登園して
来ました。カレーライスに入れるじゃがいも
と人参を個性豊かに切った後は、お楽しみ会
でする劇やペープサート、ピアノと合奏のグ
ループに分かれ、おやつを食べてから準備に
入りました。先生たち五人（年長組二人、年

中組、年少組、フリー）もグループに分か
れ、人数の多い方の劇に二人が入りました。
年長組の担任以外の先生たちは、それまでの
様子は聞いていたとはいえグループをまかさ



れて本当に大変だったと思いますが、楽しそうな声も聞かれ、短い時間にお面なども作って密度の濃い練習をしました。

スイカ割りの後は夕食です。食べられるだけの量を自分で皿に盛って席に着き、「これ、僕が切った人参だ!」、「おいしいね」と言いながら、食べていました。外は霧雨が降っていました。子どもたちがテラスにすわってキャンプファイヤーをできるように写真屋さんとボーイスカウトの方がして下さり、予定通り楽しむことができました。

二日目の朝、くもり空で雨が心配でしたので海への散歩を近くの八部公園に変更しました。川沿いに歩いて公園に入り、野球場の内野席からグラウンドを見たり、芝生の上で遊んだりしてのんびりと過ごしました。

朝食後は「いつするの?」と待っていたお

楽しみ会です。動物が出て来るペープサートは絵もかわいく言葉も一生懸命言っていました。二つの劇は話もわかりやすくよくできていて、心配していた戦いも本当にうまく演じていました。私は劇のグループには入っていませんでしたので初めて見たのですが、見ても楽しむことができました。ふざけてしまふのではと思っていた男の子たちも引っこみ思案の子どもたちも、それぞれ役になりきって恥ずかしがらずにしていることに感心し、その子どもたちの別の面を見たような気がしました。ピアノと合奏は、速さが変わるピアノに鈴とトライアングルの子どもたちが上手に合わせていたのには驚きました。みんなの前で一生懸命にする子どもたち、興味を持って友だちのすることを聞いたり見たりする子どもたちからは時々笑い声も聞こえて来

る楽しい会になりました。

お泊まり保育が終わった後、無事に終わってほっとすると共にとてもゆったりとした二日間を過ごせたと思いました。それはなぜなのか。子どもたちと一緒に考えたり決めたりしながら準備をして来ましたので、いろいろなことがあっても子どもたちはお泊まり保育を自分のものにできていたのではないかと思うのです。子どもたちは自分たちのペースで、みんなと一緒に過ごすことを心から楽しんでいました。(勿論、そこには幼稚園の子どもたちみんなを六人の先生たちで育てていくという姿勢と、いつも助けて下さるお母さんたちの支えがあるのですが)

子どもたちの成長の節目を感じながら、こうして一学期は終わりました。

(元・聖マルコ幼稚園)

